

「おどろくべき恵み」

(放蕩息子の帰還)

(ルカ15:25~32)

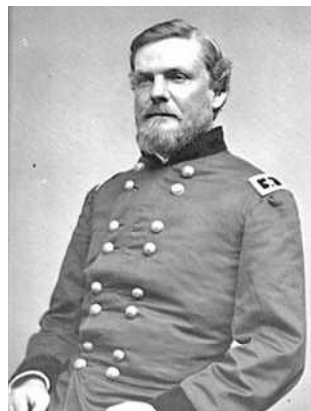
挽地茂男

2019.7.21 日本基督教団千歳丘教会

讃美歌の中には、一般の音楽(ポプラーソング)として歌われる曲も少なくありません。Amazing Grace という曲は欧米の歌手だけでなく日本の歌手によってもよく歌われている曲です。またこの曲はバグ・パイプとの相性が絶品で、バグ・パイプの演奏を聞くと、この曲のもとにある深い情緒にふ

れたような気持ちになります。この曲の作詞者はジョン・ニュートン (John Newton, 1725-1807) という人で、彼が父なる神に立ち返った信仰の経験をもとにして作詞されました。作曲者は不詳。アイルランドかスコットランドの民謡から採られているとされたり、19世紀にアメリカ南部で作られたとするなど、諸説あります。作詞者のジョン・ニュートンの入信の物語は欧米のキリスト教世界では非常に有名な話でして、伝記本が書かれたり、映画化されたり、テレビ・ドラマとして放送されています。

ジョン・ニュートンは1725年にイギリス・ロンドンに生まれました。母親は幼いニュートンに聖書を読んで聞かせるなど敬虔な



John Newton



映画 "Amazing Grace"



Amazing Grace

John Newton, 1779 (1725-1807)

1. A - maz - ing grace! how sweet the sound, That
2. 'Twas grace that taught my heart to fear, And
3. The Lord has prom - ised good to me, His
4. Through man - y dan - gers, toils, and snares, I
5. When we've been there ten thou - sand years, Bright

saved a wretch like me! I once was lost, but
grace my fears re - lieved; How pre - cious did that
word my hope se - cures; He will my shield and
have al - read - y come; 'Tis grace hath brought me
shin - ing as the sun. We've no less days to

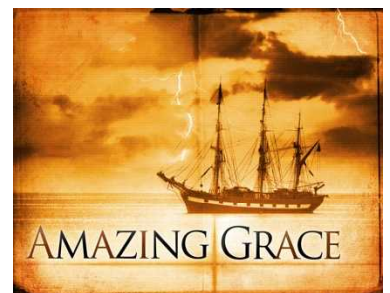
now am found, Was blind, but now I see.
grace ap - pear The hour I first be - lieved!
por - tion be As long as life en - dures.
safe thus far, And grace will lead me home.
sing God's praise Than when we'd first be - gun.

クリスチャンでしたが、1732年ニュートンが6歳の時に亡くなります。1742年11歳の時に商業船舶(商船)の元締め(指揮官)であった父と共に地中海に最初の航海に出て、船乗りとして歩み始めます。1744年19歳の時に軍艦ハリッジ号に普通船員として徴募され、その後、船乗りとしてさまざまな船を渡り歩くうちに、アフリカで拉致した黒人奴隷を輸送するいわゆる「奴隷貿易」に関わりをもち、富を得るようになります。当時奴隷として拉致された黒人への扱いは家畜以下で、輸送船の船内の衛生環境は劣悪そのもの。そのため多くの者が輸送先に到着する前に感染症や脱水症状、栄養失調などで死亡したとされています。

ニュートンもまた拉致してきた黒人に対して同様の扱いを当然の



ように行っていたが、1748年5月10日、彼が22歳の時に転機が訪れます。外地からイングランドへの航行中〔蜜蝋を輸送していた〕、船が嵐に遭い浸水し、転覆の危険に陥ります。今にも海に吞まれそうな船の中で、その時、彼は必死に神に祈ったのでした。敬虔なクリスチャンの母の信じる神に、彼が心の底から神に祈ったのはこの時が初めてでした。すると流出していた貨物が船倉の穴を塞いで浸水が弱まり、船は運よく難を逃れたのでした。ニュートンはこの日を精神的転機とし、それ以降、酒や賭け事、遊蕩な生活を改め、聖書や宗教的書物を読むようになります。またそれと同時に、彼は奴隷に対しそれまでになかった同情に苦しむようになっていきます。そしてしばらくの時を経て、いよいよ真の改悛が彼に訪れます。



1755年30歳になったニュートンは病気を理由に船を降り、

リヴァプールの税関職員になります。ロンドンで世界的なキリスト教運動を展開したジョージ・ホイットフィールド(大覚醒運動)、ジョン・ウェスレー(メソジスト運動)と関わり、影響を受け牧師になるための勉強を始めます。しかし勉学を重ねて牧師となる直前で、1758年(33歳)チェスターの主教によってニュートンの英国聖公会の聖職叙任が(過去の行状を問題にして)拒否されます。しかし牧師になる志を捨てずに努力を重ねて、1764年に(第2代ダートマス)伯爵ウィリアム・レッグの後援を得て38歳でオウルニの副牧師になります。そしてオウルニ教会の牧師として在任中の1772年、「アメイジング・グレイス」が作詞されました。ニュートン47歳の年でした。そしてこのオウルニの牧師時代を記念して、1779年(54歳)に『オウルニの讃美歌集』という讃美歌集を出版され、この中に『アメイジング・グレイス』が収録されました。またその年に、ロンドンのセント・メアリー・ウルノス教会に教区牧師として赴任致します。その頃から、奴隷貿易反対運

動に関わるようになっていきます。

その運動の中心人物であった政治家のウィリアム・ウィルバーフォースを支えた一曲が Amazing Grace でした。この運動は多くの反対を受けながらも、さまざまな経緯を経て、ついに1807年ニュートン81歳の時、英国国会法で奴隷貿易の廃止が決定を勝ち取ります。その1807年82歳になって間もなくニュートンは死去いたします。

〔亡骸は、セント・メアリー・ウルノス教会の地下納骨所に妻と共に埋葬されています。〕



政治家ウィルバーフォース(映画)

Amazing Grace の歌詞の中には、放蕩に身をやつした若き日の生活と、黒人奴隷貿易に関わったことに対する悔恨、それにもかかわらず赦しを与えた神の愛に対する感謝が歌われます。Amazing Grace の一番の歌詞はこうなっています。「驚くべき恵み。なんと甘美な響きなのだろう。わたしのようなお粗末な人生を送った者をも救

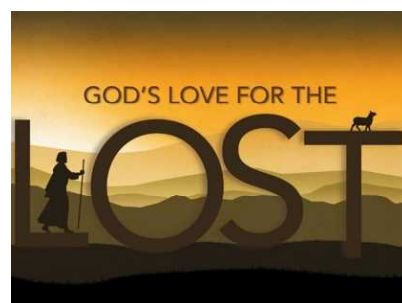
って下さった。わたしはかつては失われていた (lost) が迷ったが、今は見出され (found)、かつては盲目であったが、今は見える。」



この歌詞にある「失われていた」 (lost) のものが、「見出される」 (found) というテーマは、わたしたちが、今読んでおります「放蕩息子」 (The Lost Son) のたとえ (v. 11-32) やその前に読みました「見失った羊」 (The Lost Sheep) のたとえ (v. 4-6)

や「無くした銀貨」 (The Lost Coin) のたとえ (v. 8-9) と共通する、つまりルカによる福音書 15 章全体のテーマ (Lost-Found) なのです。「失われたもの」が「見出され」たなら、当然、喜び祝うではないか、と主イエスは言われます。羊飼いが九十九匹の羊を残して「失った一匹の羊」を捜し回り、見つけた羊をつれかえったなら、友達や近所

の人々を呼んで、一緒に喜ぶだろう。また、女が「失った銀貨」を家捜しして見つけたとしたら、彼女は、友達や近所の女たちを呼んで共に喜ぶだろう。そして、「失われた息子 (放蕩息子)」 (The Lost Son) が帰ってくれば、当然、喜ぶだろう、と主イエスは語っているのです。しかしこのたとえ話には、喜べない人が登場してまいります。



兄さんです。25 - 28 節。「15:25 ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。15:26 そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。15:27 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』15:28 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。」

兄は素直に喜ぶことができません。弟の悔悛 (悔い改め) がいかほどの意味を持つのか、彼の視線は自分の過去 (つまり実績)、弟の過

去(つまりその行状)に限定されています。「あいつは何をやったのか。」赦しは過去に縛られた視線からは出てきません。そこには未来への視線が全く欠落してしまいます。29－30節。「15:29 しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。15:30 ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』」

キリスト教の歴史の中心は、その文化的な豊かさや、政治的な先進性や、経済的支配力ではありません。キリスト教の歴史を、しかも過ち多きこの宗教を支えてきたのは、悔い改めの信実とそれを尊しする精神なのです。主イエスの「徴税人や罪人」に対する態度や、



主イエスを象徴する父親の息子に対する態度にそれが表れます。31－32節。「15:31 すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。15:32 だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』」

聖書は、色々な読み方のできる書物でありますから、「悔い改め」ということだけを特にこの箇所から取り出さなければならないというわけではありませんが、やはり、「悔い改め」の問題を外すと、この箇所の中心を外すことになってしまいうでしょう。

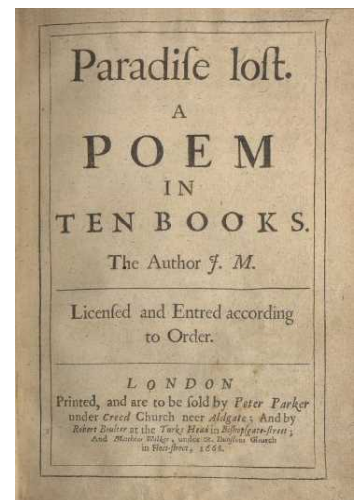
「悔い改め」と申しましたが、まず、この「悔い改め」という言葉についてまわるある種の誤解を訂正しておく必要があります。日本語で「悔い改め」と申しますと、かなり情緒的な側面に比重が置かれます。自分の罪や前非を悔いて、人の前に悔いぐずおれて、「こんな罪深い、こんな情けないわたしを赦してくれ」と、改悛の情を表す、というような情緒性に比重が

あるように思われます。もちろん改悛の情が無視されるわけではありませんが、聖書のいう悔い改めつまりギリシア語の「メタノイア」(μετάνοια)という言葉は、基本的に方向転換という意味合いを持つ言葉であります。つまり意志的な側面に比重があるという訳です。初期のキリスト教徒が、旧約聖書の詩編、つぎにイザヤ書を多用してキリスト理解、信仰理解を自分たちのものとして獲得していたと言われますが、もう一つ重要な文書は創世記です。特にルカ文書(ルカ福音書と使徒言行録)では重要な意味を持ちます。この悔い改め(ギリシア語の「メタノイア」[μετάνοια])という言葉の背後にも創世記があります。この言葉は、神が創造した最初の人間アダムとその妻エバを置いた楽園(パラダイス)つまりエデンの園から、罪を犯して楽園を後にしたという記事を背景に持っています。つまり悔い改めとは、この楽園に背を向けたという事態と逆の事態を指しているのです。エデンの園で罪を犯して神から身を隠したアダムとエバに、神は「あなたは、どこにいるのか」と問いかけ

ます。しかし、ついに彼らは楽園に背を向けることになります。新約聖書で考えられている悔い改めとは、これとは逆のプロセス。つまり背を向けていた彼らが、神に立ち帰ること。180度方向を転換して、再び神と共に生きること、創造主との関係性の中に生きることを言うのです。ですから大胆に言うと、旧約聖書と新約聖書を一貫するメッセージとは、「人よ神に帰れ」「すべてのアダムとエバよ神に帰れ」というメッセージなのです。ルカの文書の、イエス・キリストの十字架の場面を思い出してください。キリストと共に十字架につけられた犯罪人の一人が「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ」(ルカ 23:39)とイエスをののしりま



デューラー「アダムとエバ」



ミルトン『失樂園』(初版本)

す。するともう一人の犯罪人が、それをたしなめて「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない」（ルカ23:40-41）と言ひ、そして今度は、イエス・キリストに向かって「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、わたしを思い出してください」（ルカ23:42）と言ひます。すると、イエス・キリストは「アーメン（はっきり言っておくが）あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」（ルカ23:43）と答えるのです。キリスト教の救いは、この「楽園喪失」から「楽園回復」への転換として考えられています。「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」という言葉は罪人の救いを表す言葉として語られているのです。

パウロも創世記の発想を使って



救いを語ります。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく創造された者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」（Ⅱコリ5:17）。

「新しく創造された者」という表現は、もう少し直訳的に訳すと、「新しい創造物」と言う表現です。かつてアダムが神との関係の中に生きる創造物として神によって創られたように、今新たに、人は「キリストにあって」——あの創造の楽園の最初の人と同じように——神との関係の中に生きることができるといのであります。わたしたちが神に造られたこと、また神に生かされていることを認めることが問題の解決の最初の一步なのです。ですから、この新しい創造物のくだりに続くⅡコリ5:18以下で、パウロはこう言うのです。「これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたので

す。こういうわけで、私たちはキリストの使節(Ambassador)なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい」(II コリ 5:18-20)。

キリスト者とは、この和解の愛の中に生き、また他者(ひと)とこの世界に向かって、神の和解のメッセージを語り、また和解の務めを実践しようとする者のことなのです。そしてこの和解のメッセージと和解の務めは、彼の神との和解の出来事からしか出てこないのです。それは彼の悔い改めの結果としてもたらされるのです。山本和という神学者は、聖書の「悔い改め」の概念を説明してこう語っています。つまり悔い改めとは、「ひとりの人間の中に新しい人間が誕生し、彼は自己の古い生に訣別し、新しい生に歩む決断をする。神の前に死んだ者から神のために生きる者へ〔中略〕の根本的方向転換」を言う、と。神なき者から神と共に生きるものへと向かう方向転換を「悔い改め」という、と説明しています。これはキリスト教の、根本的なメッセージなので

す。パウロはこれを、「古き人間に死んで、新しき人間に生まれ変わる」と表現しました。悔い改めとは、このような、**全体的な方向転換**をさしているのです。

今日のお話の始めに Amazing Grace のお話をしました。日本語の翻訳は、どれも原曲の歌詞のもつインパクトが上手く訳されていません。とはいえ数ある訳詞のなかで言えば、わたしは、中田羽後訳の歌詞が優れていると思います。若い頃は中田羽後の歌詞はストレートすぎて余り好きではなかったのですが、年齢を経てから次第に歌詞を味わえるようになってまいりました。

中田羽後(なかだ うご、1896年9月9日-1974年7月14日)は、日本ホーリネス運動〔ウェスレーのメソジスト運動に端を発する運動の一つ〕の父とも呼ばれる中田重治の息子で、その名は羽後国(秋田県)にちなんで羽後と名づけられました。父重治は羽後をスパルタ式に鍛錬しようとしたが、逆



効果を生んだと、後に羽後が語っています。

1901年、中田重治がホーリネス運動を始め、羽後も幼少期より日本ホーリネス運動の中で育ちます。1911年(15歳)に青山学院中等部在学中に母親が病死します。半年後に、父が再婚し、今井あやめが義母になります。

1917年、ホーリネスの聖書学院の修養生であった時に、ホーリネスの説く「きよめ」の教理(ホーリネスの中心教理)が分からなくなり、大島行きの船にのり、大島で無人のぼろ小屋に住みながら自殺をしようと考えます。大島で伝道をしていた日本ホーリネス教会伝道者である安部千太郎にその事情が伝わり、安部の使いが、安部の命により羽後を安部のもとに連れて行きます。安部に村はずれの共同墓地に連れて行かれそこで安部より諄々と説得され方向転換(悔い改め)に導かれます。(自我に死ぬということを教えられ、きよめを悟った、と言われます)。その時、「賛美歌もって主に仕えよ」という御声を聞いて音楽伝道への献身を志した、と語っています。その後、復学し聖書学院を卒

業して、1918年に日本ホーリネス教会の牧師になっています。

その後、1919年ロサンゼルス聖書学院(現在の、バイオラ大学)に留学します。聖書学院ではの合唱隊に参加してメサイアを歌ったという記録



中田重治・羽後親子

が残されています。1920年にアメリカで東洋宣教会・北米ホーリネス教会の牧師になります。父・重治が渡米した際に、シカゴの教会で共にメサイアの演奏を聞きます。父・重治はメサイアに深い感銘を受け、それがホーリネス・リバイバルの原動力になっていきます。その後、羽後もメサイアを日本に広めるべく、様々な努力を続けることになります。1921年9月、帰国途上ロサンゼルス北米ホーリネス教会の最初の受洗式に出席した後、父と共に帰国。1923年にホーリネス運動のために編集されたリヴァイヴアル聖歌を出版いたします。

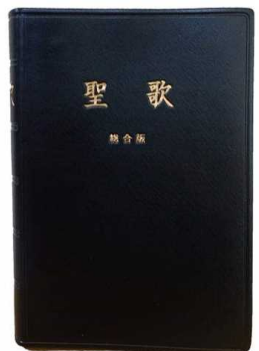
しかし1931年4月、ホーリネス・リバイバルの最中に父・重治から、「流れに添わぬ」という

理由でホーリネスの退会を命じられ、聖書学院を去ります。義母あやめとの確執が原因であったと伝えられています。その後、神経衰弱を病むも、その頃、大館町の町長より羽後に秋田犬が送られてきて、羽後は毎日散歩に連れ出すようになり、徐々に健康を回復し、聖歌の編纂に取り組み、ついに昭和7年版の「リバイバル聖歌」の編纂を完成させるます。

1932年に東京ヴォランティア・クワイアを指導しヘンデルのメサイアの公演にこぎ着けます。以降、11年間メサイアの公演は続けられ、メサイアの中田として知られるようになります。しかし次第に父・重治との確執は深刻化し、重治からは戸籍上でも親子の縁を切られるに至ります。しかし、1939年の父と義母の死去の際には、羽後は両親と和解しています。日本はしだいに戦時色を強め、1943年、東京ヴォランティア・クワイアは解散、1944年には国内でのメサイアの演奏は不可能になります。しかし、戦時下にあっても元団員を集めてラジオの海外放送を聞きながら練習を続けたのでした。

戦後の1947年より1960年まで東京チャペルセンター〔米軍設立〕の音楽主事を努め、同校が閉鎖するまでの10年間進駐軍、軍属、その家族、日本人の会衆の音楽指導を行います。進駐軍の要請により、クリスマスシーズンにメサイアの演奏を再開する。また、同時に1942年2月、聖書学院（後の千葉英和高等学校）を創立し、初代学園長に就任する。1953年にヘンデルの『メサイア』の日本語訳「救世主」の無伴奏版を出版し、チャペルセンター・クワイアにより演奏しました。

1958年、聖歌を編纂、翻訳して出版します〔中田は聖歌委員会の委員長をつとめる〕。1960年には日本イエス・キリスト教団〔ホーリネス系〕に参加し、（森山諭と共に）荻窪栄光教会〔がん哲学カフェ開催の中心教会の一つ〕を開きます。1969年、（和田健治と共に）月刊「聖歌の友」を創刊して、日本の教会音楽に大きな貢献を残します。その功績が認められ、1967年11月11日に安部正

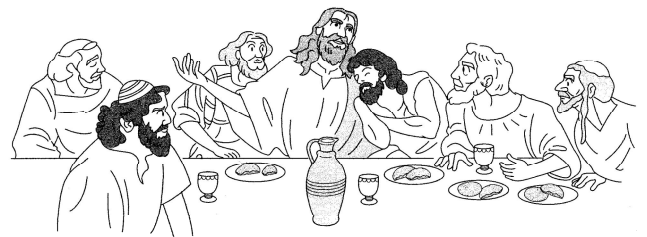


義、木岡英三郎、津川主一と共に
キリスト教功労者を受賞します。

1974年7月14日、荻窪栄光
教会で説教中に急逝します。享年
77歳の生涯でした。

1967年のキリスト教功労者
の顕彰会で、中田羽後はこう語り
ました。「私は4つの教団を退団
または除名され、5つの学校から
かくしゅ 蹴首され(=首を切られ)、その上、
父からも勘当された放蕩息子で
す。そのような私でも神は見捨て
られず、このように生涯を通じて
伝道音楽に用いたもうたのであり
ます。」

その波瀾万丈の生涯は、彼の訳
詞に片鱗をのぞかせます。のちほ
ど中田羽後訳で Amazing Grace
を歌いたと思います。わたした
ちの人生も、決して順風満帆、波
静かとは行かないものです。しか
し、つねに主がわたしたちを「徴
税人や罪人」を受け入れたように
受け入れてくださることに感謝し
つつ、新しい一週間も歩み出した
と思います。



15:25 ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。

15:26 そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。

15:27 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』

15:28 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。

15:29 しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。』

15:30 ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』

15:31 すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。』

15:32 だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくな

っていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』

15·25 Ὦν δὲ ὁ υἱὸς αὐτοῦ ὁ
πρεσβύτερος ἐν ἀγρῷ· καὶ ὡς
ἐρχόμενος ἤγγισεν τῇ οἰκίᾳ, ἤκουσεν
συμφωνίας καὶ χορῶν,

15·26 καὶ προσκαλεσάμενος ἓνα τῶν
παίδων ἐπυνθάνετο τί ἂν εἴη ταῦτα.

15·27 ὁ δὲ εἰαυτῷ ὅτι Ὁ ἀδελφός σου
ἦκει, καὶ ἔθυσεν ὁ πατήρ σου τὸν
μόσχον τὸν σιτευτόν, ὅτι ὑγιαίνοντα
αὐτὸν ἀπέλαβεν.

15·28 ὠργίσθη δὲ καὶ οὐκ ἤθελεν
εἰσελθεῖν, ὁ δὲ πατήρ αὐτοῦ ἐξελθὼν
παρεκάλει αὐτόν.

15·29 ὁ δὲ ἀποκριθεὶς εἰπὼν πατρὶ
αὐτοῦ, Ἰδοὺ τοσαῦτα ἔτη δουλεύω σοι
καὶ οὐδέποτε ἐντολήν σου παρήλθον,
καὶ ἐμοὶ οὐδέποτε ἔδωκας ἔριφον ἵνα
μετὰ τῶν φίλων μου εὐφρανθῶ·

15·30 ὅτε δὲ ὁ υἱός σου οὗτος ὁ
καταφαγὼν σου τὸν βίον μετὰ
πορνῶν ἦ, ἔθυσας αὐτῷ τὸν σιτευτόν
μόσχον.

15·31 ὁ δὲ εἰαυτῷ, Τέκνον, σὺ
πάντοτε μετ' ἐμοῦ εἶ, καὶ πάντα τὰ
ἐμὰ σὰ ἐστίν·

15·32 εὐφρανθῆναι δὲ καὶ χαρῆναι
ἔδει, ὅτι ὁ ἀδελφός σου οὗτος νεκρὸς
ἦ καὶ ἔζησεν, καὶ ἀπολωλὼς καὶ
εὐρέθη.